

新健康協会では、新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間のもつ治癒力や適応力をお伝えしています。肉体的、精神的なコトでお悩みの方も是非一読されてみてください。

健康新聞

発行所 新健康協会
発行人

〒813-0001
福岡市東区唐原6-7-1
TEL:092-661-1531
https://shinkenko.jp



次の御論文は、明主様(当協会の教祖)が、昭和二十四年に発表されたものであります。世界平和と心身共に健全な人間作りを目指す活動に御理解を頂ければ幸甚です。

社会不安の真因

当局の談によれば「今日、犯罪者が増えて困る、これはどうすればよいか。」とよく聞かれるが、これについていささか所見を述べてみよう。
忌憚なく言えば、現代人は未だ真の人間として完成してはいないのである。というのは、獣的分子が未だ多分にある。いわば半獣半人である。随分酷い事を言うと思うであろうが、事実であるから致し方がない。その理由を書いてみるが、読む人はなる程と承知するであろう。

今日犯罪防止の方法としては、警察、裁判所、監獄等の施設と、それを運営する多数の吏員、何百何千の法文があつて、ほとんど犯罪の隙のない程外形は完備している。丁度人間に危害を加える動物に対し、幾重にも嚴重な檻を作つて被害を防ぐというのと何ら選ぶ所はない。人間は古い時代から知恵を絞つて、何度檻を作つても動物共は直に破るので、段々巧妙に細かく網の目を張るようになったのが、現在の防犯状況である。見よ、年々法規は増えるが、それは網の目を細かくする事である。このように扱わなければならないのは、動物人間は檻を破ろうとして爪を磨き牙を鳴らしている。これが社会不安の因である。事実外形は人間であつても、内容は獣類である。
もし真の人間でありとすれば、檻など必要としない社会が生れるべきだ。どん

な所へ放り出しても決して悪い事はしないという人間こそ、人間としての資格者だ。文化が何程進歩しても、道義の頹廢が依然たる事實は、檻を破る手段が防ぐ手段に勝っているからである。我等がいつも言うところの、今日の文化は唯物主義のみ発達した跛行的文化という所以である。
以上の意味によつて、法律もない、防犯施設もない世界こそ人間の世界であつて、我等が現在努力しつつある目標こそは、ただ人間の世界を造るにあると言えよう。

浄霊体験記

- 毒素の排泄によつて ますます健康に…
- ゼンソク治り 薬も不要に…
- 命が救われた 奇跡の数々…
- 胸のシヨリなくなり 幸せと感謝の日々…

浄霊によって真の健康体となり、運命が向上し、幸せになられた方々の体験でございます。

带状疱疹

毒素の排泄によって
ますます健康に…



平城支部
黒磯美智子(71)

私は三歳の頃(昭和三十年頃)、脳膜炎のような状態になり、高熱が続いたことがあります。母は心配になり往診してもらったのですが、治療しても熱が下がることはなく、医者からも「もう無理ではないか」と言われる程でした。

この時、母は浄霊のことを聞いたように、浄霊が出来る方が自宅に来てくださり浄霊をしてくださったようです。母から、はっきり聞いていないのですが、一晩中浄霊されて帰られた…ということがありました。

おかげ様で熱は下がり、私は良くな

りました。その姿を見ていた叔母は浄霊が素晴らしい…との気持ちから入会したようです。

その後、浄霊を受ける機会が少なくなりましたが、大学時代になって、叔母から「あなたは三歳の時に命を頂いたので、浄霊を受けてみたら」と言われ、先に母が浄霊を受けました。

母は「やはり浄霊は良いみたい」と言っていたので、私ももう一度受けてみました。すると、その時に辛くて悩んでいた肩の痛みが軽くなって、すっきりしました。

私はこのことをきっかけに、昭和四十八年二月十八日、二十一歳の時に入会しました。その後も、浄霊で様々なおかげを頂いてきました。

辛かった带状疱疹
浄霊で良くなる…

これは、令和三年九月からの出来事です。私は带状疱疹のような状態になりました。

九月初め、今までにない身体の辛さを感じていました。どうしてかな…と思っていたら、三日後位に左の胸の下あたりから背中の中分位まで帯状の湿疹ができました。湿疹の部分は真っ赤で、火傷の跡のようになっていました。そして一番ひどい所は、その一面がふくれていました。やがて、そのふくれている所を中心に他の所も膿が溜まってきました。

特に辛かったのは始めの一カ月です。ある晩は、寝ても座っても立っても…という状態で、とにかく自分の身体のおきどころがなく、何度も明主様をお願いしました。

おかげ様でその度に浄霊を受け、痛みが徐々に楽になっていきました。そしてこれらの辛さは、その後も浄霊を受けることで全て解決出来ました。本当に有難かったです。

以前よりも元気に…

現在は、带状疱疹が出てから一年過ぎました。外側の皮膚の色は随分ときれいになっています。

時々、身体の中で火傷をしているような熱さを覚えたり、大きな虫にさされたような、電流が走るような痛みがあります。しかし浄霊を受けることで、何の不自由もありません。それどころか、以前よりも根気が出る、そして無理が出来るようになったと感じています。

痛いとか辛い等、病気は、悪化作用ではなく浄化作用である…と明主様から教えていただいていますので、浄霊によって、身体の中の悪いものが出ていくのだと実感しています。

この度は带状疱疹でしたが、今までも頭痛、発熱、寝汗が出る等の状態があり、毒素を少しずつ体外へ排泄することによって、体内は清浄化し、ますます健康になっています。回りの方々からも元気になったね、と言われます。有難いことです。

支部は清潔で、床の間にはお花が活けてあり、玄関や違い棚などにもかわいいお花が活けてあります。

身体が辛い方、精神的に悩んでいる方、そして元気な方も、是非一度支部を訪ねてみて下さい。浄霊の「良さ」を感じて頂けると幸いです。

明主様、誠に有難うございました。
(奈良県大和郡山市)

ゼンソク

ゼンソク治り
薬も不要に…



アメリカ・ロサンゼルス支部
レーナ・カーランド(56)

レーナさん(母:右)
イライジャさん(息子:左、27歳)

私は友人の勧めで、二十四年前の一九九九年四月に入会させて頂きました。その時はあまり熱心ではありませんでした。ところが、すぐに息子がゼンソクになったのです。

今から二十三年前、息子のイライジャ(当時四歳)はゼンソクと診断されました。

息子はとても活発な子でしたので、はしゃぎ過ぎてゼンソクの発作を起こすのではないかといつも心配していました。医者からは「息子さんは治療薬の噴霧器と吸入器を毎日使う必要があります」と言われました。

それから息子は毎日浄霊を受け、三カ月間噴霧器を使うのを止め、吸入器だけ使用しました。その後検診に行くと、「肺の音がとても良くなりました。なので、噴霧器は使う必要はありません。週に一度ほど吸入器の使用で良いでしょう。次は六カ月後に来て下さい」

浄化作用

人間には体内の毒素(=汚物)を排除して健康を促進しようとする働きがあります。これを称して自然良能力と言います。

例えばカゼの場合、体内にあってはならない毒素を溶かすために熱が出ます。溶けた毒素が汗やタンとなって排せつされるので体の中が掃除され、清浄化されます。

その毒素排除の過程を「浄化作用」と言います。ですから浄化作用は、熱や痛みを伴うので苦しみがありますが、体を健康にする大切な清掃作用でもあるのです。

「と医者に言われました。」

その後の六カ月間、息子は吸入器を使わず、毎日浄霊を受けました。六カ月後の検診の時、息子があまりにも元気になっていたと、医者は驚いていました。

浄霊を受けてから一年経つ頃にはゼンソクも出なくなりました。息子は大学でも盛んにスポーツも出来るようになりました。また、私自身も仕事の面でも明主様よりたくさんのおかげをいただいています。

神様は私達人間に「浄霊」という、自分と人を癒す力を下さったと思っています。誠に有難うございました。
(アメリカ・サンタモニカ市)

仕事中のケガ・熱中症

命が救われた
奇跡の数々：

大分支部
茅野憲市 (68)



私は、両親が新健康協会の会員だったということもあり、五歳の時から浄霊を受けて育ちました。

高校時代は家族から離れての寮生活でしたので、自分でも浄霊が出来るように：と、昭和四十七年十一月二十四日、私が十五歳の時に入会しました。私は海外に行ってみようという夢があり、体力にも自信がありましたので、遠洋漁業に携わりながら海外に行くことを思いつき、海洋学校に入学しました。その後、無事に学校を卒業し、遠洋マグロ船で仕事をしていました。

当時二十三歳の時のことです。魚解体作業中、出刃包丁で右膝を切つてしまいました。傷は深く、大量の出血もあつたのですが、仕事を途中で止める訳にはいかず、その後五時間必死で作業をこなしました。作業が終わった時

には立てない状態でしたので、這つて部屋まで戻りました。

その後ベッドに横たわり浄霊をしました。「明日の朝、起きられるだろうか」、仕事が出来たろうか：と不安がよぎりましたが、浄霊のおかげでいつしか眠りについていました。

翌朝、恐る恐る体を動かしてみました。あれだけの傷で出血も多かったにもかかわらず、たった一晩でいつもと変わらない状態に快復しました。

この時の感動と喜びは今でも忘れることが出来ません。

高所からの転落でも無傷

また、私が四十五歳の時のことです。この頃はトンネル作業に従事していました。この日は建設中のトンネル内でボルトを締めようという作業をしていました。

高所で作業していましたが、足元には充分注意していましたが、急に足が滑ってボルトを締める電気工具と共に真つ逆さまに落ちてしまいました。

その時、道具だけが途中の何かに引っかかり、そのおかげで道具に付いていた電線が足に引っかかり、地面に落ちる寸前の所で止まりました。近くで作業していた人は私が地面に叩きつけられたと思ったそうです。

「茅野、大丈夫か」と言いながら宙吊りになっていた私を助けてくれました。まさか無傷とは思わなかったようで、私に何度も「大丈夫か？」と聞かれましたが、おかげ様で小難で済みました。

本来なら頭を強く打つか、地面に叩きつけられるか：、とても軽い傷では

済まなかったと思いますが、何事もなく済ませて頂きました。これも日頃から明主様を信仰しているからだと思いました。

誠に有難うございました。

熱中症も楽に：

これは今から十三年前、私が五十五歳の時の話ですが、造船業に就いてたため、夏は炎天下の中作業をしていました。すると作業中に突然気分が悪くなり、事務所に戻る頃には崩れるように座り込んでしまいました。私は仕事を早退し、すぐに支部へ行き浄霊を受けました。

身体中、息苦しく高熱のため、頭が燃えるようでしたが、浄霊を受けると落ち着き、帰宅後は食事も美味しく頂けました。

一週間仕事を休み、支部や自宅で浄霊を受けました。高熱、頭痛、めまい等もありましたが、浄霊のおかげで汗がたくさん出て、下痢や湿疹といった浄化作用もあり、その後はいつものように仕事が出来ました。

入会して約五十年が過ぎましたが、いつも明主様に守られていることを感じます。

この素晴らしい明主様の御教えと浄霊を一人でも多くの方に伝えたいと思っております。

(大分県佐伯市)



身体の麻痺・胸のシコリ

胸のシコリなくなり
幸せと感謝の日々：

ネパール・カトマンズ支部
カルパナ・パラジュリ (44)



一九九五年、私が十七歳の頃、身体の横側(腰部)あたりを動かすことが出来ませんでした。

当時、お医者さんには身体の麻痺と診断され、薬では良くなりませんでした。注射を打つようになりましたが、病気が治らないので両親は、どうしたらいいだろうか：と、とても心配していました。

そんな時、近所の方が「浄霊という方法で健康になったから、あなたも浄霊を受けてみたら：」と、教えてくれました。

私は浄霊がどういったものか全く分かりませんでした。薬や注射で治らないものが良くなるのであれば：との思いで、早速支部へ行き、浄霊を受けました。

すると、今までにない良い感じを受けました。私は浄霊で体が良くなって

いきそう：と思いき、それから毎日浄霊を受けに行きました。

おかげ様で浄霊を受ける毎に体調は良くなっていき、なんと三ヵ月後には完全に良くなりました。私は本当に信じられなくて、明主様の偉大な御力に感動しました。

その後、私はすぐ入会しました。浄霊を受ける前は、外に出歩くことも出来ませんでした。浄霊を受けてから六ヵ月後にはすっかり元気になり、結婚もしました。

手術せずに浄霊で良くなる

明主様のおかげで二人の子供にも恵まれましたが、子育てが忙しくなつてからは、しばらく支部に行く回数が減っていました。すると、長男を出産したあと、両方の乳房にシコリのようなものがいくつか出来ました。何のシコリか分からなかった私は、病院で診察しました。すると「手術をしないとイケません：」と言われました。

私は「手術はしたくない、浄霊できつと良くなる！」と思いき、それから九ヵ月間毎日続けて支部に行き、浄霊を受けました。

おかげ様で完全に良くなり、手術の必要がなくなつてしまいました。心から明主様に御礼申し上げます。

その後、次男も授かることも出来、私の人生はとても素晴らしいものとなりました。

どんなことがあつても浄霊で良くなるのが有難く、明主様の御力を心の底から信じています。

私は今、明主様の浄霊のおかげで幸せです。心から感謝御礼申し上げます。有難うございました。

(ネパール・カトマンズ)

自然農法

自然農法体験談



熊本支部
たき くによし 国吉 (79)

私は昭和五十九年、新健康協会に入会し、明主様の自然農法を知りました。当時福岡で家庭菜園をしていたのですが、今から二十四年前、もっと広いところで自然農法を実行したいと思い、熊本県の阿蘇に移住しました。

現在、お米や野菜全般、桃等も育てていますが、阿蘇で自然農法を始めた頃は、土が固く、作物もなかなか思うようには育ちませんでした。その上、強い雑草が生える事が多かったので大変なところもありました。しかし、明主様の御教えで「本来の自然の土になれば変わってくる」と教えて頂いていましたので、努力を惜しまず実行していきましました。おかげ様で、土も年々良くなっていき、今ではふかふかの土に育ちました。水はけも良く、作物には最高の土になり、草も段々少なくなり、すぐ取れる草しか生えないようになりました。今でも作物の様子を見ては、「頑張つてね」と声をかけたり、時に弱っている作物を見つけた時は浄霊もします。すると、作物も元気になり、年々良く育つてくれています。本当に有難い事ばかりです。

平成二十八年の四月に発生した熊本地震でも、畑のあらゆるところに亀裂が入ったのですが、どの亀裂も深さ一メートル程度でしたので、自分達で土を入れて修復することが出来ました。また驚いたのは、あれだけの亀裂が入りながら、畑近くの母屋は全く被害がありませんでした。家の傾きもなく、近所の方からは「神様を頂いているから違うね」と言われました。

これからも明主様の御教えを実行していき、多くの方に自然農法をお伝えしたいと思っています。

美の世界

美によって人間の情操を高め、生活を豊かにし、人生を楽しく意義あるものにする事ができます。

伊東深水

《縫針》

江戸時代、遊楽風俗図や美人画、役者絵を中心に大いに流行した浮世絵。後期には町人や武士の日常生活を描いたものも多く、風俗画として豊かな内容を後世に残しました。浮世絵の母胎とされる室町時代末期、桃山時代頃の風俗画も、もともとあらゆる階層の姿を写し取るうとするものです。明治維新を迎え、欧米から導入された新しいメディアや技法の台頭によって、大衆文化としての浮世絵は衰退しますが、近代的な画家達にもその時代の「今」を描き出そうとする精神性は受け継がれていきました。

本作《縫針》を描いた伊東深水（一八九八～一九七二）は、十三歳で鐫木清方に師事し、その影響から美人画を描き始めます。日常のふとしたしぐさを切り取ったような深水の美人画は大変人気を博しました。画業の幅は広きに渡り、浮世

絵版画の復興をめざす新版画運動に参加するなど木版画に残した足跡も大きいものです。深水ははじめ、労働者、乞食、新聞配達などを描いており、美人画においても写生を重んじ、素描を重ねて制作する姿勢が伺え、風俗画である浮世絵の本質を実践していたといえます。

「風俗画は、一面芸術作品として、又、一面文化的記録としての役割を有する訳で斯うした理由から現代風俗画は非常に骨が折れるのです。と申しますのは、他の絵画のように只だ画趣に徹底するばかりではいけない。つまり時代の変遷によって現れる一切のものを如実に写して、其中で画としての芸術効果をおさめなければならぬのです」と深水は語っています。

スピード感のある線で軽やかに描かれた本作では、俯いて着物を持つ手元に視線を落とし、針仕事に集中する女性が描き出されています。手にしている着物は襟元の淡い色味から推測すると長襦袢でしょうか。じゅんわりと染められた朱色と大きくとられた白抜きの花柄が艶やかです。鼠色の着物で黙々と縫物に勤しむ女性の姿との対比もまた、お互いを引き立てています。こうした深水の仕事は華やかな浮世絵的な風俗画の系譜につらなるものであると同時に、当時の「今」の生活を映し出すものとして我々の目前に現れているのです。

解説
松田愛子

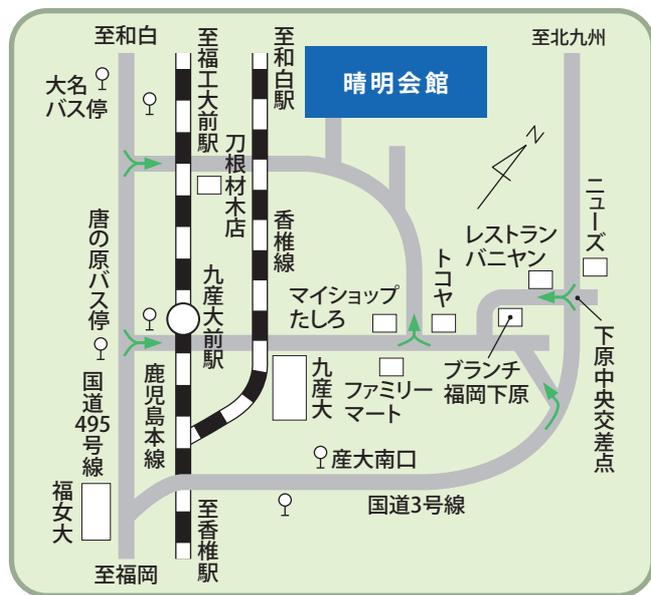


伊東深水

晴明会館

「伝承の趣」後期展
期間…1月7日(土)～5月13日(土)

※晴明会館お問い合わせ ☎092-6661-1535



健康新聞についてのお問い合わせは
(092)6661-1531まで